



## 目標や「めあて」を大切にする2学期

いよいよ今日29日(火)、2学期のスタートを迎えました。真っ黒に日焼けして元気いっぱいな子、夏休みの出来事を笑顔で話してくれた子、緊張気味の子、少し不安気な表情の子など、さまざまな思いで2学期の始業式を迎えることができました。2学期の始まりにあたり、私の方からは次のような話をしました。

「旅人が、レンガを積んでいる職人に『何をしているのですか?』と聞くと、職人 A さんは、『親方の命令でレンガを積んでいるんだよ。暑くて大変だからもうこりごりだよ。』と答えました。職人 B さんは、『レンガを積んで壁を作っているんだ。仕事は大変だけど、金がいいからやっているのさ。』と答えました。職人 C さんは、『レンガを積んで、後世に残る大聖堂を造っているんだ。こんな仕事に就けて光栄だよ。』と答えました。3人の職人さんは、仕事もお金(給料)も同じだけど、目的意識が全く違います。A さんは『言われたからやる』、B さんは『お金を稼ぐためにやる』、C さんは『人の役に立つためという、やりがいをもってやる』ということです。3人の職人さんには話の続きがあります。3人の10年後の姿は…A さんは同じように文句を言いながらレンガを積んでいて、B さんはお金のいい仕事をしていたが、危険な屋根の上で仕事をしていて、C さんは建築現場の監督となり、出来上がった大聖堂には彼の名前が付けられた、ということです。このお話でわかる通り、目標や「めあて」をもつということは、結果が大きく違ってきます。目標や「めあて」は、自分で『こういう自分になりたい』とやりがいをもって決めることができます。2学期も『こんな自分になりたい』という目標をもって、そのために『こんなことをがんばりたい』という「めあて」を大切に行動して欲しいと思います。目標や「めあて」をもつことで、一つ一つの行動が変わり、一日一日の重みが変わってきます。そうすると、一日一日の成長量が変わり、人生も大きく変わってくるのです。一人の力は学級の力となり、学級の力は学校の力となります。学校のみinnで帯西をパワーアップしていきましょう!』という内容でした。

今回の話は大人も同じで、アメリカの臨床心理学者アルバート・エリスが提唱した「ABC理論」で説明できます。ABC理論とは、出来事(Activating event)ではなく「とらえ方(Belief)」が感情(Consequence)を引き起こす、というものです。日々の暮らしの中で小さな目標や具体的な行動目標(めあて)をもって、せっかくの人生なので、3人目のレンガ職人を目指したいものです。

これは、子育てにも役立ちます。自分から「めあて」を決めて物事に取り組むとおのずと結果は違ってきます。子供の決断力を鍛える場面は、生活の中に溢れているので、小さな決断を繰り返すうちに、自分で考える癖や決める力が付いていきます。

